

巻頭言：with コロナ、after コロナで止まらない図書館づくり	1
特集：神奈川県図書館協会 この1年の動き	
地域資料委員会	2
研修委員会 大学図書館協力委員会	3
広報委員会	4
連載：わたしのイチオシ 横浜国立大学附属図書館「DX化・国際化する図書館」	5

## with コロナ、after コロナで止まらない図書館づくり

神奈川県図書館協会 大学図書館協力委員会委員長（関東学院大学図書館）百瀬 幸子

2021年より大学図書館協力委員会委員長を務めております、関東学院大学の百瀬でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

大学図書館協力委員会の目的と事業は大学図書館に関する調査研究及び相互協力のための諸事業です。「共同閲覧制度」を設けており、2023年の現時点では45校の大学が加入しています。

大学図書館協力委員会では、研究テーマをもとに年に数回、議論を重ねております。大学図書館各館の取り組みの情報共有や共通課題に対する議論をしております。非常に参考になることが多く自館で取り入れることもありました。この2年間では「with コロナ、after コロナで止まらない図書館づくり/取り組み」をテーマに委員会をオンラインで実施しました。

このコロナ禍で多くの図書館運用形式が変わりました。当初は、一時閉館をする大学も多く、開館しても消毒の徹底、閲覧席の間引き等のマイナス面が多かったのですが、同時に非来館型図書館として多くの取り組みが誕生しました。

例えば、電子資料の活用や図書館ガイダンスのオンライン化、オンライン学習対応の個人ブース設置、資料の郵送サービス等、多くのサービスが展開されました。大学の授業形式もオンライン授業が主流となり、学習支援システムやzoomの活用が一気に進み、図書館のサービスはそれらと親和性があるため、うまく活用されるようになったと思います。現在では、多くが対面授業に戻っておりますが、利用者の図書館の活用方法が変わり、より図書館の存在感が増したのではないのでしょうか。

図書館にとっても、利用者にとっても明るい兆しが見え始めておりますが、円安の影響による洋雑誌価格の高騰や莫大な業務委託費等悩ましい状況は続いております。今後も大学図書館協力委員会では、このような各館が抱える課題を話し合い、その結果や対応策をホームページ等で情報共有したいと存じます。皆様の図書館における利用者サービスの参考にしていただければ幸いです。引き続き、よろしくお願いいたします。

## 特集：「神奈川県図書館協会 この1年の動き」

### 地域資料委員会

令和4年度地域資料委員会の活動は、昨今の社会情勢の中、他の委員会同様に対面での打ち合わせが出来ず、メールや電話での意見の聴取から始めました。各委員の顔はもちろんのこと、担当業務や図書館等での経歴がわからない中、手探り状態のスタートでしたが、全委員のご協力により何とか年度の活動としてまとめることが出来ました。

回数	開催日	内容（議題）
第1回 書面会議	4/8/28 付け	・4年度活動について ・コアメンバーについて
第2回 Zoom 会議	4/12/21 参加者 6名	・調査票について ・回答用紙について ・依頼文について ・作業手順書について
第3回 書面会議	5/2/8 付け	・引継ぎ資料について ・地域資料委員会の課題 について

特に第3回目の会議は、令和5年度からの新委員の方が、2年間の任期中に成果物を完成させるためには、前委員としてどこまで成し遂げておくべきかを念頭に資料作成を行いました。さらには、令和7年度からの次々期委員に向けて、今期の私たちは何をすべきかに及ぶ検討も加わり、任期の最後でしたが「地域資料委員会としての今後の活動」という本質的な意見交換となりました。紙面の関係でその内容をお伝えすることは出来ませんが、「地域資料委員会として、何を目的に何を行っていくのか」という本質的なテーマを具体的に明確にすることが必要であり、そのための実現方策や体制を改めて考える必要があるものと感じています。

平成6年発行の「神奈川のふみくら」の最新版をWeb上で公開するという最終目標に向けては、各館コレクションの調査実施のための質問票の作成やその作業手順、スケジュール作成などの枠組みの整理に留まりました。調査・取りまとめ・公開という本質的な作業を次年度以降に引き継ぐこととなりますが、相当な作業量が発生することが予測されます。本プロジェクトの実現にあたっては、担当各館に過剰な負担が発生することがないように、加盟各館の前向きで積極的なご協力が不可欠です。紙面をお借りしまして、各館の皆さまのご協力を心よりお願いするものです。

最後になりますが、令和3、4年度に地域資料委員として活動された委員の皆様、特に令和4年度コアメンバーとして多くの資料作成、各種調整取り組んでいただいた、県立神奈川近代文学館、横浜市中央図書館、川崎市立中原図書館の各委員にお礼申し上げます。

[委員長 小田原市立中央図書館 佐次 安一]



「神奈川のふみくら」神奈川県図書館協会  
有隣堂 1994 年刊

## 特集：「神奈川県図書館協会 この1年の動き」

### 研修委員会

令和4年度は、2年ぶりに見学会や集合研修を再開することができ、実地で学ぶことの意義を実感した1年でした。一方、オンライン研修という新たな手法も定着しつつあります。研修の形態が多様化する中、各委員が工夫し、7回の研修会を開催しました。

詳しい報告はホームページをご覧ください。

(<http://www.kanagawa-la.jp/>)

回数	研修テーマ・講師（敬称略）	開催日・場所
第1回	【講演】「松竹大谷図書館のクラウドファンディング」について 講師：武藤祥子（松竹大谷図書館）	11/18 Zoom 開催
第2回	子ども読書推進フォーラム（神奈川県立図書館共催） 【講演】ヤングアダルト世代の皆さんに向けて 講師：古内一絵（作家） 【事例発表】読書推進に向けた図書委員会の取り組みについて（横浜市立山内中学校）	12/11 神奈川県立図書館 Zoom 開催
第3回	【見学会】小田原駅東口図書館	12/6
第4回	【見学会】神奈川県立図書館本館	1/26
第5回	【講座】おはなし会のであそび・わらべうた 講師：落合美知子（おはなしとおんがくのちいさいうち）	2/22 神奈川県立図書館
第6回	【講演】パンデミック後を見据える海外の大学図書館の取り組みからわが国での方向性を考える 講師：長塚隆（鶴見大学名誉教授）	3/9 Zoom 開催
第7回	【講演】絵本に願いを込めて 講師：作田真知子（元・福音館書店こどものとも編集長）	3/15 湯河原町立図書館

研修会開催に際し、ご協力くださいました皆様方に、改めてお礼を申し上げます。

[委員長 鎌倉市中央図書館 栗原 章郎]

### 大学図書館協力委員会

大学図書館協力委員会は、大学図書館に関する調査・研究と、相互協力事業の推進を目的として活動しています。今年度は前年度に設定した調査研究テーマである「with コロナ、after コロナで止まらない図書館づくり／取り組み」を継続して実施いたしました。

今年度は7月に第1回、10月に第2回、そして2月に第3回の委員会を開催し、2か年を通じて6回の委員会を開催することができました。

すべての会が Zoom での開催となり、対面での実施は叶いませんでしたが、新たな開催形式が確立できたともいえます。

今年度の活動を概観いたしますと、コロナウイルスへの対応に追われた1年といえます。社会環境がまさに with コロナへと変化する中、さまざまなバックボーンをもつ各大学図書館の対応について情報共有できたことは、大きな収穫でした。また相互協力については、今年度「神奈川県内大学図書館共通閲覧証制度参加館」に新たに1館が追加となり、ネットワークの増強が期待されます。

今後の展望についてですが、相変わらずコロナへの対応は予断を許しません。しかしながら社会環境は、少しずつコロナ前に戻りつつあります。休止していたサービスの復活のみならず、コロナを契機として導入された新たな取り組みを発展させ、さらなるサービス向上に努めていきます。さらに、大学図書館に共通するさまざまな課題について、今後とも問題の共有と解決を図りたいと考えております。

なお、2か年の活動の詳細は、議事録として協会のキャビネットにアップしております。合わせてご覧ください。

[委員長 関東学院大学図書館 百瀬 幸子]

## 特集：「神奈川県図書館協会 この1年の動き」

### 広報委員会

令和4年度は広報委員会を計6回開催し、ここでは図書館総合展出展や神図協HPの更新、広報活動に関する様々な課題について協議を重ねました。

日付	議題内容
第1回 (5/11)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神図協HPの現状確認、HP更新の計画について</li> <li>・今後の広報委員会活動方法についての確認、総合展出展に向けて</li> </ul>
第2回 (7/6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神図協HPについて委員から意見を聞き、検討</li> <li>・第24回 図書館総合展 2022 出展について委員から意見を聞き、検討</li> </ul>
第3回 (8/24)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第24回 図書館総合展 2022 出展実施内容、作業予定について</li> <li>・神図協 HP について検討内容の確認</li> </ul>
第4回 (10/19)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第24回 図書館総合展 2022 出展内容の最終確認</li> <li>・神図協 HP コンテンツについての検討、作業予定の確認</li> </ul>
第5回 (1/18)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第24回 図書館総合展 2022 出展報告について</li> <li>・神図協 HP 今後の取組について</li> <li>・令和4年度決算見込、令和5年度予算(案)について</li> </ul>
第6回 (3/22)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神図協 HP 次年度の取組について</li> <li>・令和4年度事業報告、決算見込、令和5年度事業計画(案)、予算(案)について</li> <li>・広報委員会業務の引継ぎについて</li> </ul>

※委員会はずべて Zoom によるオンライン開催

11月1日～30日に開催された「第24回 図書館総合展 ONLINE\_plus」へのウェブサイトブースページ（ブース展示）では、県内公立図書館の電子図書サービス、各加盟館のデジタルアーカイブ、先進的な図書館の事例、特色ある活動等を加盟館から募集し、それをオンライン上で紹介、“神図協加盟館に対して役立つ情報の提供や神図協PRの場”となるよう取り組みを行いました。

また、現行の神図協HPについては、容量の見直し、情報掲載年限の基準等を定め、現行HPのコンテンツの整理・精査、そして令和5年度予算化に向けた費用の確認を進め、魅力あるHPの運営に向け検討を進めました。

神図協の活動をPRするにあたり、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、誰を対象に、どのようにアプローチしていくか、HP等の情報発信という手段を駆使した広報活動を検討し、情報発信ツールの多様化という観点から、時代に即したSNS（Facebook・Twitter・Instagram）等、新たな情報発信の方法についても検討を進めました。

広報誌である協会報・図書館だより発行につきましては、第279号（7月1日発行）、第280号（10月1日発行）、第281号（1月1日発行）、第282号（4月1日発行）を作成し、加盟館情報の周知を図りました。

原稿執筆等、広報活動に対しご協力いただいた加盟館の皆様には、あらためまして感謝とお礼を申し上げます。

[委員長 藤沢市総合市民図書館 市川 雅之]

横浜国立大学附属図書館が担当する今回の「私のイチオシ」では、「DX化・国際化への取り組み」について紹介したいと思います。

1. Zoom Rooms を利用したアクティブラーニングツールとして Neat Board (ニートボード) を導入し、館外にいる学生とのグループ学習を行いやすい環境を整備しました。

本学は、日越大学の大学院生 (MBA) をインターンシップ生として受け入れています。当館では、来日に先立ちベトナム在住の学生に対して、2022年10月に英語で、当館が契約するデータベースや文献検索のレクチャーを実施しました。

2. Neat Board は職員の会議や研修にも活用しています。

当館が当番校を務めた国立大学図書館協会関東甲信越地区助成事業研修会においては、全国50カ所以上のネットワークの中で研修を行い、大人数を画面で一覧しながら研修運営を進めることができ、今後の研修の在り方の可能性を開花させるものでした。

3. 当館では、2022年4月から、株式会社ツガワ様より寄贈いただいた「空中ディスプレイ」を OPAC 端末として試行活用しています。

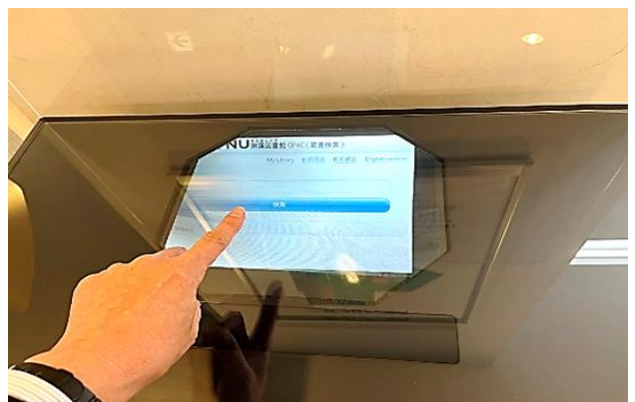
ディスプレイの近くで指を動かすと、センサーが指の動きを感知し、タッチレスで画面上のキーボード入力ができます。ディスプレイとキーボードが一体化しているため、広いスペースを確保しながら検索を行うことができます。

4. 2023年2月に、本学広報担当部署と連携し、当館内で広報動画用のドローン撮影を行いました。

ドローンは非常に小回りが効き、迫力に富んだ高画質の映像を撮影することができました。ドローンの高速性や臨場感に富んだ空中からの視点を活用することで、学生へのオリエンテーションや館内ツアーの在り方を変える可能性を秘めており、今後の更なる応用が期待されるところです。



ベトナム在住の日越大学院生へのレクチャー



空中ディスプレイを使用した OPAC 端末



ドローンで図書館内外を空中から撮影しました

(横浜国立大学附属図書館 目谷 史秋)